



クローズアップ
CLOSE UP

四公祭が前橋まつりに

10月6日と7日に前橋まつりを開催。多くの人たちがまちなかを訪れ、各イベントや屋台を楽しみました。また、7日は前橋四公祭を初めて同時開催しました。前橋ゆかりの四大名家をイメージした衣装を身にまとい、演舞や行列を披露。立川町通りが歴史一色に染まりました。



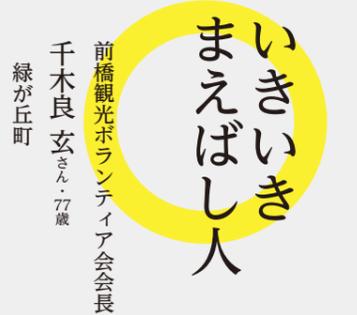
トップ選手が熱戦展開

寛仁親王牌・世界選手権記念トーナメントを今年も開催。トップクラスの競輪選手たちが激闘を見せ、来場者を沸かせました。会場では前回の決勝レースを再現したVR体感イベントも。表彰式では故寛仁親王の長女彬子さまが、優勝者をたたえられました。



季節の花に囲まれて

10月13日と14日にローズタウンで、コスモス&蕎麦祭りを開催。広大な敷地に広がるコスモスが来場者を迎えました。また、14日には連携イベントであそかまつりも開催。両会場を結ぶ小型電動バスが登場し、多くの人々がバザーやステージイベントなどを楽しみました。



臨江閣は前橋の近代史の象徴

国指定重要文化財となった臨江閣。千木良さんが会長を務める前橋観光ボランティア会では、臨江閣を中心に市内の歴史施設などのガイドを行っている。



語る。

「ここがどんな場所か、どんな素晴らしい点があるのか知ってもらいたいという熱意が欠かせません」

最も充実感を得られるのは、やはりお客さんが満足した様子を感じられる時。良いガイドを行うため、おもてなしの心で相手の立場に立った接し方を心掛けています。

「マニュアルどおりに話すだけでは飽きられてしまいますからね」

大改修や将棋の竜王戦開催などに続き、国重文への指定ですます注目を集める臨江閣。千木良さんたちの活躍が、その価値をさらに高めていく。



前橋文学館 ☎ 027-235-8011

萩原朔美文学館長が各界の著名人と対談。さまざまな領域で活躍する館長の素顔に迫ります。今回は天井棧敷のメンバーで映像作家の安藤紘平さんとの対談「我らの寺山修司体験」(一部)の後編をお届けします。

● 山田太一さんと寺山修司の関係

安藤 脚本家の山田太一さんは寺山さんと早稲田大の同級生。山田さんが文芸誌で賞をもらった時ちょうど寺山さんも短歌研究で特選をとり、編集長がお祝いにごちそうしてくるから一緒に行かないかと山田さんを誘った。山田さんはその時の中華が一生で一番うまい飯だったって。それ以来二人はすごい仲良しになったみたいだね。寺山さんが入院していた時は、山田さんは大学の授業が終わると病院に行って本や授業の話をして、



寺山修司との思い出を語る2人

それでも語り尽くせないことは互いに文通していた。萩原 すごいよね。大人の男同士があんなに熱く語るもなかったくらい。手紙は本にもなったけどお互いとおっておいんだね。安藤 萩原さんが二人の生まれ育ちについていいことを言ったよね。寺山さんは父を早く亡くし、山田さんは逆に母を亡くしている。二人とも家族について語っているけど二卵性のように近い形でありながら全く違う形でのアプローチで家族を語っていると。萩原 同じような感じなんだけど、出口が違うんだよね。安藤 真反対のような、対立したような。それを萩原さんが言っていて素晴らしいなと思った。(了)